

# MS-Word による論文作成のガイド (第 3.2 版)

寺田真敏<sup>†1</sup> 西田豊明<sup>†2</sup> 植村俊亮<sup>†3</sup>

**概要:** このパンフレットは、情報処理学会論文誌（以後、論文誌と呼ぶ）に投稿する投稿用原稿、並びに掲載が決定した論文の製版用原稿、MS-Word を用いて作成し提出するためのガイドである。このパンフレットでは、論文作成のための MS-Word テンプレートファイル（.dot）について解説している。また、このパンフレット自体も論文と同じ方法で作成されているので、必要に応じて雛形として参照されたい。

## 1. 注意

このドキュメントは、情報処理学会が研究会・シンポジウム用に新しく定め、配布している共通テンプレートに対し、インタラクションにおける製版工程の差異上不可欠な組版要素に関して最低限の変更を施したテンプレートです。

**インタラクションでは、和文で原稿を作成する場合、タイトル、著者名、アブストラクト、図表キャプションは日本語で、英文で原稿を作成する場合は英語で記載し、和英の併記はしないで下さい。** その他の原稿作成・提出上の注意は、

<http://www.interaction-ipsj.org/2021/submissions/> の案内に従ってください。以下は、研究会・シンポジウムの原稿を作成する上での一般的な注意になります。

## 2. はじめに

情報処理学会では、本会創立 50 周年（2010 年 4 月）に向けた刊行物オンライン化に伴い、2008 年度の論文誌に続き、2009 年度は研究会活動のオンライン化を促進している[a]。本稿では、日頃から MS-Word で文書を作成している著者向けに専用のテンプレートファイル（.dot）とテンプレートファイルを用いて作成した原稿例”MS-Word による論文作成のガイド（.pdf）”とを提供する[b]。

MS-Word による投稿にあたっては、多数の読者に親しまれてきた論文誌の体裁を継承し、かつ査読者が読み易い論文の体裁を維持することが必要であり、著者の方々の協力が不可欠である。一方、著者にとってのメリットとしては、専用のテンプレートファイル（.dot）を提供しているので、日頃から MS-Word で文書を作成している多くの著者には無理なく受け入れられるものと期待している。さらに、以

前に比べて格段に読み易い草稿を得ることができる。これは自分の原稿をチェックする著者だけではなく、査読者にとっても大きなメリットである。本稿は、そのテンプレートファイルを実際に使っているので、執筆の際に参考にされたい。

なお、MS-Word に関しては、投稿されたフォーマットを基に、業者が LaTeX に変換して組版を行うので、あくまでも参考としてしか使われないことを承知して頂きたい。

## 3. 投稿から出版まで

投稿する論文の作成から、論文が掲載された論文誌が出版されるまでの流れは、次の通りである。

### (1) テンプレートファイルの取得

MS-Word による論文作成キットについては、下記の URL から取得して欲しい。なお、インターネットにアクセスできない方は、学会事務局(editt@ipsj.or.jp)に相談していただきたい。

テンプレートファイル

<https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/style.html>

このキットには下記のファイルが含まれている。

- テンプレートファイル: ipsjstyle-ms2012.dot
- テンプレートファイルのメッセージダイジェスト値: ipsjstyle-ms2012.mds.txt
- 作成した原稿例: ipsjstyle-ms2012.pdf

また、提供するテンプレートファイルは、図 1 に示す通り、3 つのセクションから構成している。

- (a)表題、著者名、概要
- (b)本文、参考文献、付録
- (c)謝辞、著者紹介

<sup>†1</sup> (株)日立製作所

<sup>†2</sup> 京都大学

<sup>†3</sup> 奈良先端大学院大学

a) 情報処理学会では、論文誌を迅速かつ低コストで出版するために LaTeX での投稿を推奨している。

b) Microsoft, Microsoft Word は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。



表 1 に示すスタイルを用意している。例えば、該当する段落にカーソルを置いた後、スタイルの中から「#見出し 1 IPSJ」をクリックすれば、この書式設定が段落に適用される。

概要へのスタイル「#概要 IPSJ」適用を例に、MS-Word における操作を紹介する。詳細な操作方法については、文献 [3] を参照して欲しい。

- [ホーム]-[スタイル] の右下ボタンをクリックし、[スタイル] ボックスの一覧を表示する (図 4 の(a))。
- スタイルを設定したい段落にカーソルを選択する (図 4 の(b))。
- [スタイル] ボックスの一覧から、設定するスタイルをクリックする (図 4 の(c))。

なお、スタイルの設定操作にあたっては、本テンプレートファイルで用意したスタイルの設定が変更されないよう下記に留意願いたい。

- 「スタイルの変更」において、「自動的に更新する」のチェックボックスをチェックしないこと (図 5)。
- 「文字/段落スタイルの変更」に関して、「選択箇所と一致するよう更新する (図 6)」を選択しないこと。

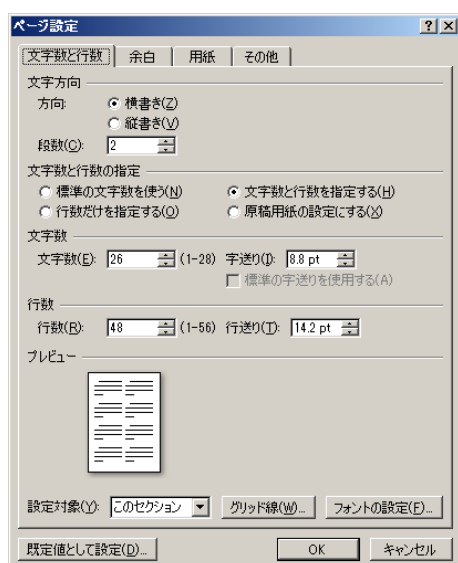


図 3 2 段組の文字数と行数

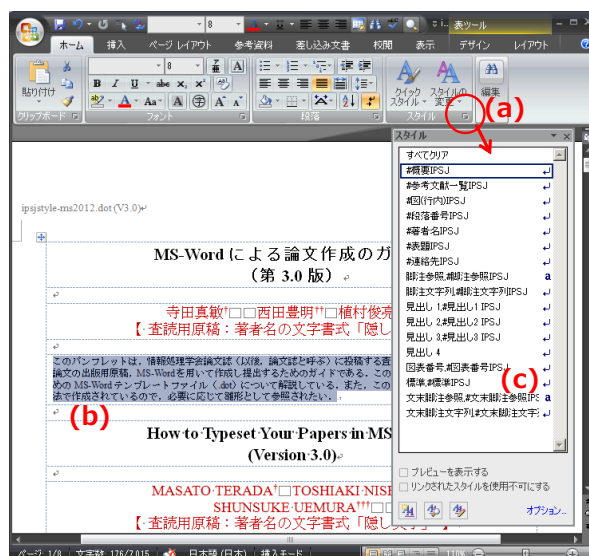


図 4 スタイルの設定

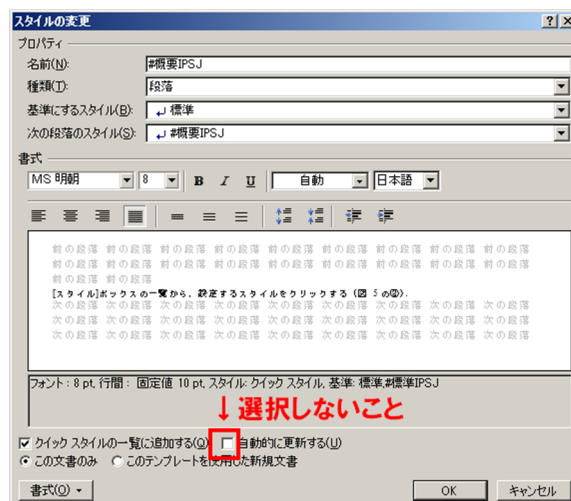


図 5 スタイルの変更

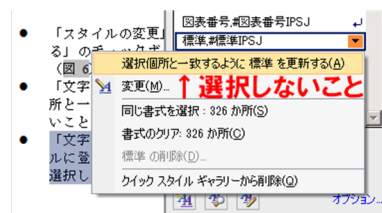


図 6 文字/段落スタイルの変更

表 1 本テンプレートファイルで用意したスタイル

スタイル名	用途	フォント名	文字サイズ	文字列配置
#表題 IPSJ	表題	MS ゴシック (太字) Times New Roman	14pt	中央揃え
#標準 IPSJ	本文	MS 明朝 Times New Roman	9pt	両端揃え
#概要 IPSJ	概要 キーワード	MS 明朝 Times New Roman	8pt	両端揃え
#著者名 IPSJ	著者名	MS 明朝 Times New Roman	12pt	左揃え
#見出し 1 IPSJ	節の見出し	MS ゴシック (太字) Times New Roman	11pt	左揃え
#見出し 2 IPSJ	小節の見出し	MS ゴシック (太字) Times New Roman	9pt	左揃え
#段落番号 IPSJ	番号付きの箇条書き	MS ゴシック (太字) Times New Roman	9pt	両端揃え
#箇条書き IPSJ	黒丸の箇条書き	MS 明朝 Times New Roman	9pt	両端揃え
#脚注参照 IPSJ	脚注参照用のラベル	MS 明朝 Times New Roman	9pt	—
#脚注文字列 IPSJ	脚注	MS 明朝 Times New Roman	7pt	左揃え
#文末脚注参照 IPSJ	文末脚注参照用のラベル	MS 明朝 Times New Roman	9pt	左揃え
#文末脚注文字列 IPSJ	参考文献の記述など	MS 明朝 Times New Roman	8pt	左揃え
#図表番号 IPSJ	図表番号の題目	MS 明朝 Times New Roman	9pt	中央揃え
#参考文献一覧 IPSJ	参考文献の番号付け	MS 明朝 Times New Roman	8pt	左揃え

#### 4.4 表題などの記述 (図 1 の(a))

表題、著者名とその所属、概要を記述する。書式設定については、スタイルを使用して設定するか、表 1 の書式設定値を参考にして記述して欲しい。

##### 表題

和文ならびに英文の表題を罫線内に記述する。

##### 著者名と所属

各著者の所属を第一著者から順に罫線内に記述する。

##### 概要

和文ならびに英文の概要を罫線内に記述する。

##### キーワード

和文ならびに英文のキーワードを罫線内に記述する。

#### 4.5 見出し

節の見出しを記述する場合には、段落前に 1 行の空白行を記述すること。なお、スタイル「#見出し 1 IPSJ」を適用した節の見出しは 2 行を占めて出力される。

#### 4.6 文章の記述

##### フォントサイズ

本文のフォントは、日本語: MS 明朝 9pt, 英数字: Times New Roman 9pt とする。

##### 句読点

句点には全角の「.」, 読点には全角の「,」を用いる。ただし英文中や数式中で「.」や「,」を使う場合には、半角文字を使う。「。(全角)」や「,(全角)」は一切使わない。

##### 全角文字と半角文字

全角文字と半角文字の両方にある文字は次のように使い分ける。

- 括弧は全角の「(」と「)」を用いる。但し、英文の概要、図表見出し、書誌データでは半角の「(」と「)」を用いる。
- 英数字、空白、記号類は半角文字を用いる。ただし、句読点に関しては、前項で述べたような例外がある。
- カタカナは全角文字を用いる。
- 引用符では開きと閉じを区別する。開きには“を用い、閉じには”を用いる。

#### 4.7 図表番号の記述

図表番号の書式設定については、スタイルを使用して設定するか、表 1 の書式設定値を参考にして記述して欲しい。なお、ガイドの図表番号の記述にあたっては、表、図、数式などに図表番号を自動的に追加する MS-Word の「図表番号」機能を利用して作成している。

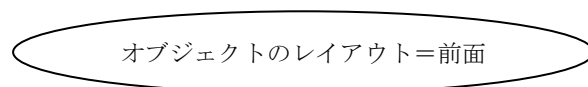


図 7 オブジェクトのレイアウト

MS-Word における操作は以下の通りである。

- 図表番号を記述する段落にカーソルを置く。
- [参考資料]-[図表番号の挿入] をクリックする (図 8 の(a))。
- [図表番号] ボックスの [ラベル名] 一覧から、設定するラベル (図、表など) を選択した後、[OK] をクリックする (図 8 の(b)(c))。

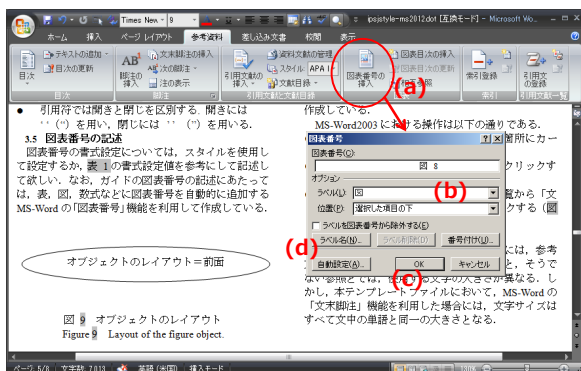


図 8 図表番号の設定

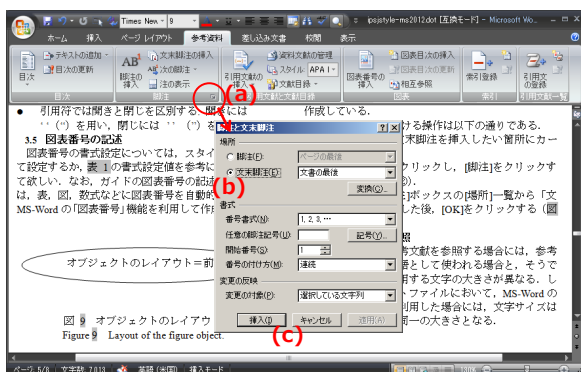


図 9 文末脚注（参考文献）の設定

なお、英文ラベル名（“Figure”, “Fig.”, “Table” など）を使用したい場合には、[ラベル名]（図 8 の(d)）をクリックして新たにラベル名を作成した後、上記の操作を行なう。

#### 4.8 参考文献リストの作成

参考文献リスト[4]には、原則として本文中で引用した文献のみを列挙する。順序は参照順あるいは第一著者の苗字のアルファベット順とする。なおこのガイドの参考文献は、MS-Word の「文末脚注」機能を利用して作成している。

MS-Word における操作は以下の通りである。

- 参考文献など文末脚注を挿入したい箇所にカーソルを置く。
- [参考資料]-[脚注] をクリックし、[脚注と文末脚注] ボックスを表示する（図 9 の(a)）。
- [脚注と文末脚注] ボックスの [場所] 一覧から「文末脚注」を選択した後、[OK] をクリックする（図 9 の(b)(c)）。

#### 4.9 参考文献の参照

通常、本文中で参考文献を参照する場合には、参考文献番号が文中の単語として使われる場合と、そうでない参照とでは、使用する文字の大きさが異なる。しかし、本テンプレートファイルにおいて、MS-Word の「文末脚注」機能を利用した場合には、文字サイズはすべて文中の単語と同一の大きさとなる。

たとえば、

文献 [5]は MS-Word[6]に関する総合的な解説書である。  
参考文献の記載例 [5][6][7]

となる。

なお、このガイドでは、MS-Word の「図表番号参照と文末脚注参照」機能を利用して作成している。

MS-Word における操作は以下の通りである。

- 参照する図表や参考文献の番号を挿入したい箇所にカーソルを置く。
- [図表]-[相互参照] をクリックする（図 10 の(a)）。
- [相互参照] ボックスの [参照する項目] 一覧から「図・表・見出し・文末脚注など」を選択する（図 10 の(b)）。
- [相互参照の文字列] 一覧から「番号とラベルのみ（図表の場合）」「見出し番号（見出しの場合）」「文末脚注番号（文末脚注の場合）」をクリックする（図 10 の(c)）。
- 「参照先」一覧から該当する項目を選択した後、[OK] をクリックする（図 10 の(d)）。

#### 4.10 謝辞、著者紹介

投稿用ならびに製版用原稿では謝辞を参考文献の直前に挿入し、著者紹介を参考文献の直後あるいは付録の直後に挿入する。

#### 4.11 付録

付録がある場合には、参考文献の直後に引き続いて記述する。

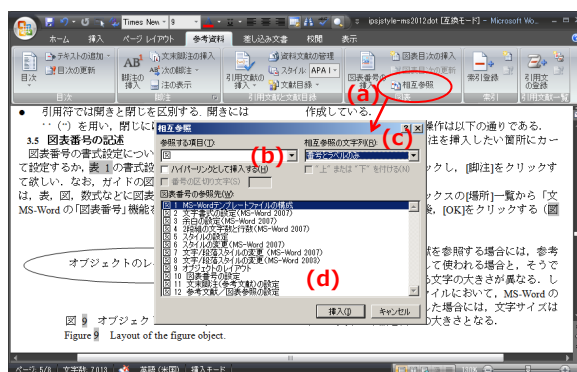


図 10 参考文献／図表参照の設定

### 5. おわりに

MS-Word 用のテンプレートファイルは運用が始まってから日が浅いため、解決されていない問題点が少なからずあると思われる。これらを著者の方々の御協力を仰ぎつつ、少しでも使いやすくするための改良を加えていくつもりである。そこで、テンプレートファイルに関する要望や意見を、是非 wordtemp@ipsj.or.jp までお寄せいただきたい。

**謝辞** MS-Word のテンプレートファイルの作成にご協力頂いた皆様に、謹んで感謝の意を表する。

## 参考文献

- [1] “論文誌ジャーナルおよびJIPの査読のシングルブラインド制への移行について”.  
[https://www.ipsj.or.jp/journal/info/jour\\_topics/topi44.html](https://www.ipsj.or.jp/journal/info/jour_topics/topi44.html), (参照 2016-02-20).
- [2] “Word のスタイルの基礎”.  
<https://support.office.com/ja-JP/article/d38d6e47-f6fc-48eb-a607-1eb120dec563>, (参照 2016-02-20).
- [3] “Office のサポート”. <https://support.office.com/ja-jp/>, (参照 2016-02-20).
- [4] “科学技術情報流通技術基準 参照文献の書き方(SIST 02)”.  
<http://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST02-2007.pdf>, (参照 2016-02-20).
- [5] “Microsoft Office”. <https://office.microsoft.com/ja-jp/>, (参照 2016-02-20).
- [6] “Microsoft Office 製品情報”.  
<https://office.microsoft.com/ja-jp/products>, (参照 2016-02-20).
- [7] 桜井貴文. 直観主義論理と型理論. 情報処理, 1999, vol. 30, no. 6, p. 626-634.
- [8] 野口健一郎, 大谷真. OSI の実現とその課題. 情報処理, 1990, vol. 31, no. 9, p. 1235-1244.
- [9] 田中正次, 村松茂, 山下茂. 9 段数 7 次陽的 Runge-Kutta 法の最適化について. 情報処理学会論文誌. 1992, vol. 33, no. 12, p. 1512-1526.
- [10] Itoh, S. and Goto, N.. An Adaptive Noiseless Coding for Sources with Big Alphabet Size. IEICE Transactions. 1991, vol. E74-A, no. 9, p. 2495-2503.
- [11] Foley, J. D. et al.. Computer Graphics: Principles and Practice in C. 2nd ed., Addison-Wesley Professional, 1990, 1200p.
- [12] 千葉則茂, 村岡一信. レイトレーシング CG 入門. サイエンス社, 1990, 282p.
- [13] Chang, C. L. and Lee, R. C. T.. Symbolic Logic and Mechanical Theorem Proving. Academic Press, 1973, 331p.

## 付録

### 付録 A.1 テンプレートファイルの更新履歴

版数	更新内容
V1.0	2005-05-31 初版
V1.1a	2006-10-19
V1.2	2007-03-24
V1.2a	2007-04-24
V2.0	2009-03-31
V3.0	2012-03-31 情報処理学会研究報告用原稿と論文誌用原稿の様式を縦長に変更した. 2012-05-05 著者の所属表記を†1形式に変更した. 2015-02-13 タイプミス修正 (「。(全角)」や「、(全角)」は一切使わない) 2015-09-06 キーワード欄を追記した. 参考文献[エラー! ブックマークが定義されていません。][エラー! ブックマークが定義されていません。]を更新した.
V3.1	2015-09-30 シングルブラインド制への移行にあわせ、本文を改訂した.
V3.2	2016-01-07 参考文献の番号表記を N) から [N] に変更した. 「#参考文献一覧 IPSJ のスタイル」を改訂した. 2016-02-04 タイプミスを修正した. 投稿原稿の取り扱いについて追記した. 2016-02-20 参考文献の記述を SIST 02 にあわせた.